

大阪 輸出堅調も需要減が影響し膠着ムード

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は膠着商状。新規輸出商談は堅調気配を保ったまま8月入りを迎えつつも、電炉筋の生産、購入ともに先月比で減退へ向かうことで、先々の不透明感はいづら環境にありそうだ。同地区電炉のH2実勢値は2万2500~2万3500円、新断バラ同2万5000~2万5500円、鋼グライ粉バラ同2万~2万1000円見当で推移。

需要国のアイデア価格との乖離が生じつつも、日本側は集荷難を背景に、オファー価格を引き上げたままにあり、これに譲歩する形で成約レベルは段階的に値を上げている。また、電炉買値に今すぐに影響を与えるほどではないにせよ、複数湾岸筋による値戻しが散見されていることで、市中からは電炉向けと並行して

湾岸向け出荷へと動き出しており、「再び湾岸の引き合いが強まってきた。月替わりを迎えて、メーカー入荷は落ち着いてくるのでは」(ヤード業者筋)と見る向きもある。

ただ、今月生産は7月比で3万ト以上の減少が見込まれるなか、今週末もしくは盆明けにかけて夏季炉休を計画している点でも、需要は振るわない展開にある。今月入っても制限買いが残る状況にあるが、盆明けにかけては夏季炉休入りやその準備に向けて、電炉側から入荷を抑制する意向も聞かれることで、「海外要因が市況を落ち着かせているに過ぎない。8月後半から需要が一段と冷え込む以上、輸出高の影響は市況面に受けづらいため」(商社)と慎重な向きが多い。

山陽特殊製鋼 8月3日(月)7時~8日(土)7時まで荷止め

(姫路) 山陽特殊製鋼は8月3日(月)7時~8日(土)7時まで車輦に関係なく鉄スクラップの荷止めを実施

する。入場開始時間は8月8日(土)5時より、荷受け開始時間は8月8日(土)7時からを予定している

近畿工業、新工場「TOMOE FACTORY」を建設

刃物の製造・再生に特化し競争力を強化

(兵庫) 破碎機・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市中央区栄町4丁目2番18号、和田知樹社長)はかねてから建設をすすめてきた新工場の「TOMOE FACTORY(トモエファクトリー)」が完成し、4月から本格操業を開始している。

新工場では高度化・多様化する廃棄物処理・リサイクルニーズに対応すべく、二軸式破碎機用刃物の製作及び再生を手掛けるが、大部分の工程はロボット活用による自動化を取り入れている。

TOMOE FACTORY(トモエファクトリー)は同社の主力製造拠点である三木工場(兵庫県三木市別所町巴20、敷地面積約3万㎡)と同じ工業団地内にあり、同工場から自動車ですら3分ほどの場所に位置する。総敷地面積は約9,400㎡、建屋面積約5,200㎡で昨年3月から建設工事に着工し、今年4月から本格稼働を開始している。製造工程や動線の設計を専門家へ依頼し、徹底的に無駄を省いたレイアウトとなっている新工場の完成とともに、トモエプラント(兵庫県三木市)で手掛けてきた二軸せん断式破碎機の刃物製作及び摩耗した使用済み刃物の再生事業を移管・集約する。新工場ではロボット活用によって、省人化を図るとともに、24時間体制での自動化生産を確立。生産能力の飛躍的な向上と高品質化を駆使し、競争力のさらなる強化を図る。

近畿工業は1948年に創業。2004年に廃家電製品等の鉄・銅・アルミなどが複合した金属素材を高精度・高

効率に成分回収する捻砕技術の開発で文部科学大臣賞を受けたほか、2011年には兵庫県ものづくり技術大賞も受賞した。発売開始から30年で2,000台以上の販売実績を持つ二軸剪断式破碎機は国内トップシェアを誇り、2015年には業界初となる工業系雑品処理に特化した「スーパーシュレッダー」のほか、2017年に自動車電装用モーター(ワイパーモーターやパワーウィンドウモーターなど)、小型工業用雑品、小型家電、家電4品目、不燃粗大ゴミなど幅広い品目を処理対象物とした「V-BUSTER」の製造・販売を手掛ける。

昨年からの中国による雑品輸入禁止に伴って、鉄・非鉄スクラップの混合廃棄物は国内処理が求められているのに合わせて、両機種ともに受注実績や見積り案件が増加傾向にある。



本格操業を開始している新工場「TOMOE FACTORY」